

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	土地区画整理事業特別会計	022	款		項		目	
事務事業名	大曲駅前第二地区土地区画整理事業								
担当部署	建設部土地区画整理事務所	604000	電話	0187-63-0542			内線		

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	04:生活の基盤が整ったまちづくり	04000000
	施策の大綱	03:市街地の整備	04030000
	施策	02:良好なまちづくりの推進	04030200
	施策の内容	01:土地区画整理事業の推進	04030201
根拠法令等	土地区画整理法、大仙市大曲都市計画事業大曲駅前第二地区土地区画整理事業の施行規程に関する条例		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	生活の基盤が整ったまちづくりを実施する
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	市民・区画整理地内の土地等の権利者
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①公共施設(道路・水路・公園等)の整備 ・道路(49路線・総延長L=7,035m) ・水路(4路線・総延長L=1,119m) ・公園(3か所・総面積A=7,750㎡) ②建物の移転 ③大花都市再生住宅の建設
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	交通の円滑化。歩行者の安全確保。商店街の形成。住宅利用の増進。地域全体の活性化。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 建物移転数	戸	37	12	27
	② 道路整備延長	m	238	104	88
	③ 水路整備延長	m	0	0	0
成果 (事業の成果を測る)	① 建物移転率(移転建物/移転予定)	%	78	80	85
	② 道路整備率(整備済延長/計画延長)	%	56	58	59
	③ 水路整備率(整備済延長/計画延長)	%	60	60	60
投入コスト	決算額		1,882,981千円	1,989,337千円	1,492,177千円
		一般財源	63,271千円	82,011千円	71,874千円
	人件費		98,168千円	91,032千円	78,674千円
		一般職員の年間従事人数	13.0人	12.0人	10.5人
		一般職員以外の年間従事人数	3.0人	3.0人	2.6人
	総コスト	(決算額+人件費)	1,981,149千円	2,080,369千円	1,570,851千円

事業を取り巻く環境	平成元年度より事業開始。事業開始後21年が経過しているため、計画内容の再検討を行うとともに国の補助制度の変更にあわせ、22年度に事業計画を変更した。今回の変更により事業期間を平成27年度まで延長した。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	この地区は公共施設(道路・公園・水路等)の整備が遅れているため、今後も事業の継続が必要である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	A
	評価の理由	道路などの公共施設整備は順調に進んでおり、残りの整備計画・残事業の計画について見直しを行い、22年度に事業計画の変更を行った。今回の変更により事業期間を平成27年度まで延長した。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	従来、外注していた建物調査・補償積算業務について、専門の建築士を直接雇用し、直営で調査積算するなどして、業務の効率化を図っている。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)	
現状	A 現状のまま継続	常に、市民ニーズの動向に注目し、事業計画の妥当性を確認しながら、無駄のない基盤整備に努める。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	